

Interview

東京芸術劇場館長 荻田 伍

都市型劇場として ますます発展させていきたい。

2015年4月よりアザヒグループホールディングス株式会社相談役である
荻田 伍氏が東京芸術劇場の新館長に就任。現在の思いを語っていただきました。

Q 東京芸術劇場館長就任おめでとうございます。“芸劇”の印象はいかがですか？

まずは池袋西口という立地がいいですね。これは多機能・多目的に使われる都市型劇場として必要な条件。ホールはもちろんですが、ギャラリーやアトリエなど、いろいろな使い方ができるスペースがあるところもいいですね。それと、スタッフが若くて元気があるという印象を受けています。

Q 抱負を教えてください。

先に述べたようなこの劇場のアドバンテージをどれだけ活かせるか、ということになると思います。つまり、こどもたちを含めた一般の人たちに、文化や芸術により多く触れてもらい、文化的交流の場として活用していただける施設になるということです。また、東京都民はもちろん、特に地域社会に根差した劇場としての役割を果たし、豊島区をはじめ、立教大学など近隣教育機関や

企業、住民などの皆様とともにコミュニティの発展にも一層寄与していきたいと考えています。これから2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツだけではなく、芸術や文化のグローバルな交流もますます盛んになっていく。そのときに、東京芸術劇場が情報発信の拠点になることができるといいですね。

Q 劇場に足を運ぶ側から、お迎えする側になられますが、どのような劇場であるべきだと思いますか？

いつも、劇場全体が清潔で安全な場所でありたいと思います。それと、働く人たちがどういう思いでお客を迎えるのか、つまり、スタッフの音楽や演劇に対する愛がその場所の雰囲気を作ると思うので、職員たちにはそのことを常に意識してほしいと考えています。

Q これまで観た芝居やコンサートの中で、特に印象に残っているものはありますか？

演奏会が好きなのですが、最近足を運んだ中では、ピアニストの辻井伸行さんのコンサートや、井上道義さん指揮のオーケストラ・アンサンブル金沢による公演はととてもよかったですね。劇場に行くと、元気をもらったり、ストレスの解消になったりと、毎回少なからず刺激を受けています。そしてこのことこそが、文化・芸術の一番の価値なのではないかと思います。

Q 最後に読者へのメッセージをお願いします。

私は仕事で海外へ行くことも多いのですが、そのたびに「もっと日本の芸術について知っておくべきだ」と感じます。ですから皆さんにも、日本の伝統芸能のようなものから、新しい文化や芸術まで、興味を持って積極的に触れていただきたいと思っています。そのときにこの東京芸術劇場がお役に立てるなら、これ以上の喜びはありません。

I N F O R M A T I O N

■ 鑑賞サポートのご案内

東京芸術劇場では、目や耳が不自由な方を対象に舞台説明会・ポータブル字幕機提供サービス(無料・要事前申込)を実施しています。

7月～9月対象公演

「cocoon」「障子の国のティンカーベル」
「気づかいルーシー」

【お問合せ】東京芸術劇場 ボックスオフィス 0570-010-296

■ 東京芸術劇場 新託児施設“だっこルーム”について

劇場をご利用のお客様を対象に、託児サービス(有料・要事前申込)がごございます。
【お問合せ】小学館集英社プロダクション 03-3981-7003(平日10:00～17:00)

■ 劇場広報誌BUZZへの掲載広告募集!

【お問合せ】東京芸術劇場 広報営業係 03-5391-2117